３　絹本著色鹿島立神影図　　１幅　　［有形文化財（絵画）］

附　旧軸木　　１本

永徳三年九月三十日二條英印筆の記がある

［所在地］　奈良市春日野町 160 番地

［所有者］　春日大社

［法　量］　縦 107.1 ㎝、横 36.2 ㎝

［時　代］　南北朝時代（永徳３年／ 1383）

［概　要］

春日社第一殿の祭神武甕槌命が中臣時風、秀行を従えて常陸の鹿島より御蓋山に影向したという、当社縁起に基づく図である。

白鹿にのる武甕槌命は束帯姿で笏を執り、白鹿の背後には神木にのった金色の円相の中に春日四社と若宮の本地仏をあらわす。遠景には御蓋山と春日連山を望み、白鹿の足元には衣冠姿の２随身が侍す。武甕槌命は柔和な描線で、着衣には緻密な文様をあらわす。鹿の姿には生彩があり細かな毛描きまで的確である。本地仏は輪郭線を盛り上げ、円相中に浮かび上がるようにあらわす。明快な色使いには南都の絵師の作風が顕著である。

明治時代の修理で取り外した軸木の銘文から、永徳３年（1383）に二條英印が描いたことがわかる。二條英印は南都絵所の芝座に属した絵仏師であったと考えられる。製作時期と作者名が明らかな基準作として本県の絵画史上高い価値を有する作品である。